

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-87751

(P2010-87751A)

(43) 公開日 平成22年4月15日(2010.4.15)

(51) Int.Cl.
H04Q 3/58 (2006.01)F I
H04Q 3/58 1 O 7テーマコード (参考)
5 K 0 4 9

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2008-253331 (P2008-253331)
(22) 出願日 平成20年9月30日 (2008. 9. 30)(71) 出願人 000227205
NECインフロンティア株式会社
神奈川県川崎市高津区北見方2丁目6番1号
(74) 代理人 100077838
弁理士 池田 憲保
(74) 代理人 100082924
弁理士 福田 修一
(74) 代理人 100129023
弁理士 佐々木 敬
(72) 発明者 勝田 一輝
神奈川県川崎市高津区北見方二丁目6番1号 NECインフロンティア株式会社内
Fターム(参考) 5K049 AA18 BB05 BB17 EE02 FF01
FF12 FF15 FF43 KK02 KK11

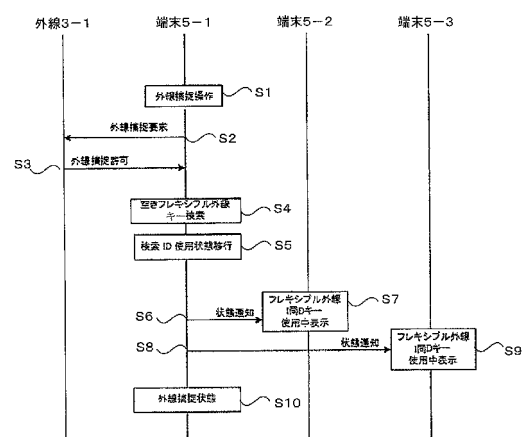
(54) 【発明の名称】 キーテレホンシステムの外線共有方法及びキーテレホンシステム

(57) 【要約】

【課題】 キーテレホンシステムにおいて、物理的な外線の収容数に左右されることなく外線キーを設定可能な外線の管理技術を提供する。

【解決手段】 主装置及び複数の端末を備えるキーテレホンシステムに収容された外線を複数の端末の間で共有する際、外線のいずれかに対して割り当てられるための一のキーID、複数の端末のひとつである第1の端末のキーのひとつである第1のキー、及び、複数の端末のひとつである第2の端末とは異なる第2の端末のキーのひとつである第2のキーの間の対応関係を、キーテレホンシステムの記憶装置に格納する。外線のいずれかを主装置にて捕捉すると、対応関係にて第1のキーに対応するキーIDのうち未使用のひとつを捕捉した外線に対して割り当て、第2の端末に対し、当該他の端末がキーIDを割り当てた外線を捕捉することを通知し、第1の端末が捕捉した外線を第2の端末が捕捉する。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

主装置及び複数の端末を備えるキーテレホンシステムに収容された外線を複数の端末の間で共有する方法において、

前記外線のいずれかに対して割り当てられるための一のキーID、前記複数の端末のひとつである第1の端末のキーのひとつである第1のキー、及び、前記複数の端末のひとつであって前記第1の端末とは異なる第2の端末のキーのひとつである第2のキーの間の対応関係を、前記キーテレホンシステムの記憶装置に格納する段階と、

外線のいずれかを前記主装置にて捕捉する段階と、

前記対応関係にて前記第1のキーに対応する前記キーIDのうち未使用のひとつを前記捕捉した外線に対して割り当てる段階と、

前記第2の端末に対し、当該他の端末が前記キーIDを割り当てた外線を捕捉することを通知する段階と、

前記第1の端末が前記捕捉した外線を前記第2の端末が捕捉する段階と

を含むことを特徴とする、キーテレホンシステムの外線共有方法。

10

【請求項 2】

請求項1に記載のキーテレホンシステムの外線共有方法において、更に、

前記第1の端末にて前記捕捉した外線を保留する段階と、

前記第2の端末に対して前記捕捉した外線が保留されたことを通知する段階とを含むことを特徴とする、キーテレホンシステムの外線共有方法。

20

【請求項 3】

請求項2に記載のキーテレホンシステムの外線共有方法において、更に、

前記第2の端末にて前記保留した外線を捕捉する段階と、

前記第1の端末に対し、当該他の端末が前記キーIDを割り当てた外線を捕捉したことを通知する段階と

を含むことを特徴とする、キーテレホンシステムの外線共有方法。

【請求項 4】

請求項1乃至3のいずれかに記載のキーテレホンシステムの外線共有方法において、前記キーテレホンシステムが収容する外線の数と、前記対応関係に格納された前記キーIDの数は異なることを特徴とする、キーテレホンシステムの外線共有方法。

30

【請求項 5】

少なくとも一の主装置及び複数の端末を備えるキーテレホンシステムにおいて、

前記外線のいずれかに対して割り当てられるための一のキーID、前記複数の端末のひとつである第1の端末のキーのひとつである第1のキー、及び、前記複数の端末のひとつであって前記第1の端末とは異なる第2の端末のキーのひとつである第2のキーの間の対応関係を記憶する対応関係記憶手段と、

前記キーIDのそれぞれが使用されているか未使用かを記憶するキーID状態記憶手段と、

前記対応関係にて前記第1のキーに対応するキーIDであって、前記キーID状態記憶手段において未使用と記憶されたもののひとつを、前記主装置にて捕捉した外線に対して割り当てる手段と、

40

前記第2の端末以外の端末が前記キーIDを割り当てられた外線を捕捉することを、前記第2の端末に通知する手段と

を備えることを特徴とするキーテレホンシステム。

【請求項 6】

請求項5に記載のキーテレホンシステムにおいて、更に、

前記第1の端末にて前記捕捉した外線を保留する手段と、

前記第2の端末に対して前記捕捉した外線が保留されたことを通知する手段とを備えることを特徴とするキーテレホンシステム。

【請求項 7】

50

請求項 6 に記載のキーテレホンシステムにおいて、更に、
前記第 2 の端末にて前記保留した外線を捕捉する手段と、
前記第 1 の端末に対し、当該他の端末が前記キー ID を割り当てた外線を捕捉したことを通知する手段と
を備えることを特徴とするキーテレホンシステム。

【請求項 8】

請求項 5 乃至 7 のいずれかに記載のキーテレホンシステムにおいて、前記キーテレホンシステムが収容する外線の数と、前記対応関係に格納された前記キー ID の数は異なることを特徴とするキーテレホンシステム。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明はキーテレホンシステムに関し、特に、キーテレホンシステムの複数の端末において外線応答及び保留呼を共有する技術に関する。

【背景技術】

【0002】

この種の従来技術は例えば特許文献 1 に記載されている。この種の従来技術では、外線番号に一对一に対応するキーを設定し、このキーを端末間で共有することにより、キーテレホンシステム内で外線を共有管理していた。

【0003】

20

このような従来技術によれば、外線番号とキーの対応関係が一对一に対応するため、外線数の増加に応じてキー数が増加し、主装置に収容可能な外線の数が増加するにつれて制限されていた。

【0004】

また、外線番号とキーの対応関係が固定的なため、主装置に収容する外線の数が増加する場合だけではなく、減少する場合であっても、また、外線の総数が同じであっても外線の番号が変わる場合にも、キーの設定を変更する必要があった。

【0005】

【特許文献 1】特開 2006 - 108863

【発明の開示】

30

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、本発明が解決しようとする課題は、キーテレホンシステムにおいて、物理的な外線の収容数に左右されることなく外線キーを設定可能な外線の管理技術を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上述の課題を解決するため本発明は次のキーテレホンシステムの外線共有方法及びキーテレホンシステムを提供する。

【0008】

40

まず、本発明は、その一態様として、主装置及び複数の端末を備えるキーテレホンシステムに収容された外線を複数の端末の間で共有する方法において、外線のいずれかに対して割り当てられるための一のキー ID、複数の端末のひとつである第 1 の端末のキーのひとつである第 1 のキー、及び、複数の端末のひとつであって第 1 の端末とは異なる第 2 の端末のキーのひとつである第 2 のキーの間の対応関係を、キーテレホンシステムの記憶装置に格納する段階と、外線のいずれかを主装置にて捕捉する段階（ステップ S 2、S 3）と、対応関係にて第 1 のキーに対応するキー ID のうち未使用のひとつを捕捉した外線に対して割り当てる段階（ステップ S 4、S 5）と、第 2 の端末に対し、当該他の端末がキー ID を割り当てた外線を捕捉することを通知する段階（ステップ S 6、S 7）と、第 1 の端末が捕捉した外線を捕捉する段階（ステップ S 10）とを含むことを特徴とする、キ

50

ーテレホンシステムの外線共有方法を提供する。

【 0 0 0 9 】

また、本発明は、その他の態様として、少なくとも一の主装置及び複数の端末を備えるキーテレホンシステムにおいて、外線のいずれかに対して割り当てられるための一のキーID、複数の端末のひとつである第1の端末のキーのひとつである第1のキー、及び、複数の端末のひとつであって第1の端末とは異なる第2の端末のキーのひとつである第2のキーの間の対応関係を記憶する対応関係記憶手段（記憶装置、電話機管理ファイル）と、キーIDのそれぞれが使用されているか未使用かを記憶するキーID状態記憶手段（記憶装置、外線管理ファイル）と、対応関係にて第1のキーに対応するキーIDであって、キーID状態記憶手段において未使用と記憶されたもののひとつを、主装置にて捕捉した外線に対して割り当てる手段と、第2の端末以外の端末がキーIDを割り当てられた外線を捕捉することを、第2の端末に通知する手段とを備えることを特徴とするキーテレホンシステムを提供する。

10

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

本発明によれば、キーIDを特定の物理外線に予め割り当てず、外線捕捉時に割り当てる。このキーIDはいわば外線の仮想IDとして作用し、外線の数や外線番号の変更による影響を受けない。その結果、本発明によれば、物理的な外線の収容数に左右されことなく外線キーを設定可能なキーテレホンシステムと外線の共有方法を提供することができる。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

（第1の実施の形態）

本発明の実施の形態であるキーテレホンシステム1について図1を参照して説明する。キーテレホンシステム1は、主装置2、主装置2に収容された外線パッケージ3、内線パッケージ4、端末5-1、5-2、...、5-aからなる。

【 0 0 1 2 】

主装置2は、外線パッケージ3、内線パッケージ4に接続されたユニットインタフェース6、呼制御部7、記憶装置8からなる。呼制御部6は、応答制御部9、保留制御部10、データ制御部11からなる。応答制御部9は応答に関する動作を制御する。保留制御部10は保留に関する動作を制御する。データ制御部11は記憶装置8内に確保されているデータ領域にアクセスしてデータの読み書きを行う。外線パッケージ3は複数の外線3-1、3-2、...、3-bからなる。内線パッケージ4は複数の内線4-1、4-2、...、4-aからなる。a、bは自然数である。端末間を区別する必要がない場合は端末5と記す。同様に外線を総称して外線3、内線を総称して内線4と記す場合がある。

30

【 0 0 1 3 】

図2を参照すると、端末5は、受話器21、液晶ディスプレイ等の表示装置22、テンキー23、保留キー24、発信キー25、応答キー26、機能キー群27を備える。機能キー群27の各機能キーにはA1、A2、...、An、B1、B2、...、Bn、...、Z1、Z2、...、Znの名前が付与されている。以下、特定の機能キーを指す場合はこれらの名前を用いて機能キーA1、機能キーB2等と記す。各機能キーにはそれぞれに異なる識別子としてキーIDが付与されている。主装置2の記憶装置8のデータ領域には、フレキシブル外線キーのキーIDと、キーIDを有するフレキシブル外線キーを備える端末との対応関係を記したリンクリストが格納されている。

40

【 0 0 1 4 】

端末5-1において、発信ボタン25、応答ボタン26を押下する、またはテンキー23にて所定の空き外線捕捉特番をダイヤルする（ステップS1）と、外線3のいずれかが捕捉される（ステップS2）。このとき、端末5-1に設定されているフレキシブル外線キーのうち空いているものをひとつ占有し、捕捉した外線に割り当てる（ステップS4、S5、S10）。主装置2は、同じキーIDのフレキシブル外線キーが設定されている他

50

端末をリンクリストから検索し、該当する端末に捕捉状態を通知する（ステップ S 6 ～ S 8）。ここでは、端末 5 - 1 が捕捉中の外線に割り当てたものと同じキー ID を有するフレキシブル外線キーが端末 5 - 2、5 - 3 にあるものとする。このとき、端末 5 - 1 にてフレキシブル外線キーに割り当てて捕捉中の外線を保留すると、主装置 2 は先に捕捉状態を通知した端末 5 - 2、5 - 3 に保留状態を通知する。このとき、同じキー ID を共有するフレキシブル外線キーは、端末 5 - 1、5 - 2、5 - 3 のいずれにおいても保留状態になる。ここで保留した呼に端末 5 - 2 にて応答すると、主装置 2 は端末 5 - 1、5 - 3 に対して捕捉状態を通知する。

【0015】

図 4 を参照して主装置 2 から外線捕捉許可を受けた後の端末 5 の動作について説明する。ユーザの外線捕捉操作に応じて主装置 2 から外線捕捉許可を受ける（ステップ S 2 1）と、端末 5 は、自身のフレキシブル外線キーのうち、空いていて使用可能なもののキー ID を検索する（ステップ S 2 2）。検索したキー ID に関連付けされている状態メモリに使用状態を記録（ステップ S 2 3）し、同じキー ID を有するフレキシブル外線キーが登録されている他端末を検索（ステップ S 2 4）し、該当する全ての端末に対して状態通知を行う（ステップ S 2 5）。また、検索したキー ID のフレキシブル外線キーの LED 表示を変更する（ステップ S 2 6）。未使用のキー ID が見つからない場合は捕捉不可のエラーとして扱う（ステップ S 2 7）。

【0016】

（第 2 の実施の形態）

次に、本発明の第 2 の実施の形態であるキーテレホンシステム 3 0 について説明する。キーテレホンシステム 3 0 は、主装置 3 1、主装置 3 1 に収容された外線パッケージ 3 2、内線パッケージ 3 3、端末 3 4 - 1、3 4 - 2、...、3 4 - a からなる。

【0017】

主装置 3 1 は、外線パッケージ 3 2、内線パッケージ 3 3 に接続されたユニットインタフェース 3 5、呼制御回路 3 6、制御部 3 7、記憶装置 3 8 からなる。制御部 3 7 は、応答制御部 3 9、保留制御部 4 0、データ制御部 4 1、発信制御部 4 2 からなる。応答制御部 3 9 は応答に関する動作を制御する。保留制御部 4 0 は保留に関する動作を制御する。データ制御部 4 1 は記憶装置 3 8 に確保されているデータ領域にアクセスしてデータの読み書きを行う。データ領域は電話機管理ファイル 4 3、外線管理ファイル 4 4、共有 ID 管理ファイル 4 5 を含む。電話機管理ファイル 4 3 には端末 3 4 を管理するための情報が格納されている。外線管理ファイル 4 4 には外線 3 2 を管理するための情報が格納されている。共有 ID 管理ファイル 4 5 には共有 ID を管理するための情報が格納されている。外線パッケージ 3 2 は複数の外線 3 2 - 1、3 2 - 2、...、3 2 - b からなる。内線パッケージ 3 3 は複数の内線 3 3 - 1、3 3 - 2、...、3 3 - a からなる。a、b は自然数である。端末間を区別する必要がない場合は端末 3 4 と記す。同様に外線を総称して外線 3 2、内線を総称して内線 3 3 と記す場合がある。

【0018】

端末 3 4 はインタフェース部 5 0 を介して主装置 3 1 に接続されている。インタフェース部 5 1 には音声処理部 5 1 を介して送受話器 5 2、スピーカ / マイク 5 3 が接続されている。インタフェース部 5 0、音声処理部 5 1 をはじめとして端末 3 4 は制御部 5 4 により制御されており、制御部 5 4 には、入力装置としてダイヤルボタン 5 5、機能ボタン 5 6、保留ボタン 5 7、発信ボタン 5 8、応答ボタン 5 9 が接続され、更に、記憶部 6 0、表示部 6 1 が接続されている。フレキシブル外線キーとして働く機能ボタン 5 6 は A 1、A 2、A 3、A 4 を含む。以下、機能ボタンを F K ボタンと記す場合がある。また、機能ボタン 5 6 のひとつを区別して、F K ボタン A 1、F K ボタン A 2、F K ボタン A 3、F K ボタン A 4 等と記す場合がある。

【0019】

ここでは説明を明瞭にするため a = 3、b = 4 を例示して説明する。即ち、図 6 を参照すると、内線パッケージ 3 3 は 3 本の内線 3 3 - 1、3 3 - 2、3 3 - 3 からなり、それ

10

20

30

40

50

それに端末 34 - 1、34 - 2、34 - 2 が接続されている。また、外線パッケージ 32 は外線 32 - 1、32 - 2、33 - 2、33 - 4 からなり、それぞれの電話番号は、1001、1002、1003、1004 とする。また、主装置 31 は、フレキシブル外線キーのキー ID として、共有 ID 0001、0002、...、000n を確保している。

【0020】

上述したように、端末 34 - 1、34 - 2、34 - 3 はそれぞれ F K ボタン A 1 ~ A 4 を備える。このうち、F K ボタン A 1 はどの端末のものであっても共有 ID 0001 が設定されているものとする。同様に、F K ボタン A 2 はどの端末のものであっても共有 ID 0002 が設定されているものとする。F K ボタン A 1 及び A 2 では、各端末において同種の F K ボタン全てに対して同一の共有 ID を設定している。これに対して、端末 34 - 1 の F K ボタン A 3 には共有 ID 0003 が設定される一方、端末 34 - 2、34 - 3 の F K ボタン A 3 には共有 ID 0005 が設定されている。また、端末 34 - 1 の F K ボタン A 4 には共有 ID 0004 が設定される一方、端末 34 - 2、34 - 3 の F K ボタン A 4 には共有 ID 0006 が設定されている。各端末の F K ボタン A 1 ~ A 4 と共有 ID の対応関係、即ちリンクリストは例えば電話機管理ファイル 43 に設定される。

【0021】

このような設定がなされている状態で、端末 34 - 1 で外線発信し、保留した後、端末 34 - 2 にて通話を再開するときの F K ボタンの状態表示の遷移について図 7 ~ 10 を参照して説明する。これらの図中、外線管理ファイル 44 の外線状態は対応する外線の使用状態を示すものであり、1 が使用中であることを示し、0 が空きであることを示す。共有 ID 管理ファイル 45 の状態情報は対応する共有 ID の使用状態を示すものであり、1 が使用中であることを示し、0 が空きであることを示す。テーブル 70 - 1、70 - 2、70 - 3 は説明のために電話機管理ファイル 43 の一部を抜き出したものであり、それぞれ端末 34 - 1、34 - 2、34 - 3 の F K ボタン A 1 ~ A 4 の使用状態を示し、0 は未使用状態であることを示し、1 は使用中であることを示す。

【0022】

端末 34 - 1 にて発信する直前の状態について図 7 を参照して説明すると、外線管理ファイル 44 に示すように、外線 32 - 1 ~ 32 - 4 はいずれも空いており、共有 ID 管理ファイル 45 に示すように共有 ID は全て空いており、テーブル 70 - 1 ~ 70 - 3 に示すように全端末の全 F K ボタンは未使用の状態にある。

【0023】

図 7 の状態において、端末 34 - 1 の発信ボタン 58、応答ボタン 59 を押下する、またはダイヤルボタン 55 にて所定の空き外線捕捉特番をダイヤルすると、主装置 31 は、外線 32 - 1 ~ 32 - 4 のうち、空いているもののいずれかを捕捉し、端末 34 - 1 に設定されているフレキシブル外線キーの中から空いているものをひとつ検索して、捕捉した外線に割り当てる。また、主装置 31 は同じ共有 ID のフレキシブル外線キーが設定してある端末をリンクリストから検索し、該当する端末へ捕捉状態を通知する。端末 34 - 1 の発信ボタン 58 を押下すると、共有 ID から空き状態を検索する。空き状態である共有 ID 0001 を使用状態とし、外線から空き外線 1001 を検索し、外線を捕捉する。共有 ID 0001 の状態情報を 1 に更新するとともに、共有 ID 0001 が設定された端末に対し、共有 ID 0001 が使用状態となったことを通知し、F K ボタン A 1 の状態表示を捕捉状態に更新する。

【0024】

これら動作の後の状態について図 8 を参照して説明すると、ここでは、データ制御部 41 は、外線管理ファイル 44 において外線番号 1001 の外線状態を 1 に更新し、共有 ID 管理ファイル 45 において共有 ID 0001 の状態情報を 1 に更新する。また、電話機管理ファイル 43 において、共有 ID 0001 を設定された F K ボタンである端末 34 - 1、34 - 2、34 - 3 の各 F K ボタン A 1 の状態表示を 1 に更新する。ただし、ここでは端末 34 - 1 が発信元であるため、端末 34 - 1 の F K ボタン A 1 の LED は自端末での使用を示す緑点灯し、他の端末 34 - 2、34 - 3 の LED は他端末が使用しているこ

とを示す赤点灯する。

【 0 0 2 5 】

こうして端末 3 4 - 1 が F K ボタン A 1、共有 I D 0 0 0 1、外線 1 0 0 1 を用いて外線発信した状態で、ユーザが保留ボタン 5 7 を押下したときの動作について図 9 を参照して説明すると、端末 3 4 - 1 は保留状態に移行し、F K ボタン A 1 の L E D を赤点滅状態にすると共に、主装置 3 1 に対し、共有 I D 0 0 0 1 に係る外線が保留状態に移行したことを通知する。これを受けて、主装置 3 1 は、端末 3 4 - 1 の F K ボタン A 1 と同じ共有 I D 0 0 0 1 が設定された F K ボタンを備える端末 3 4 - 2、3 4 - 3 に対して、共有 I D 0 0 0 1 に係る外線が保留状態になったことを通知する。これに応じて端末 3 4 - 2 及び 3 4 - 3 の F K ボタン A 1 の L E D は共に保留状態を示す赤点滅状態に移行する。

10

【 0 0 2 6 】

このようにして、端末 3 4 - 1 からの外線 1 0 0 1 番を介する外線発信は保留された。この状態からは、端末 3 4 - 1、3 4 - 2、3 4 - 3 のどの端末でも外線 1 0 0 1 番の保留を解除することができる。ここでは、端末 3 4 - 2 にて F K ボタン A 1 に係る保留を解除する操作を行ったものとする、端末 3 4 - 2 の F K ボタン A 1 の L E D は自端末での使用を示す緑点灯状態に移行し、端末 3 4 - 2 は主装置 3 1 に共有 I D 0 0 0 1 に係る外線の保留を解除したことを通知する。この通知を受けて、主装置 3 1 は、共有 I D 0 0 0 1 が設定された端末 3 4 - 1、3 4 - 3 に対し、保留が解除されたことを通知し、これを受けて端末 3 4 - 1、3 4 - 3 では、共有 I D 0 0 0 1 が設定された F K ボタン A 1 の L E D 表示を他端末での使用を示す赤点灯に切り替える。このときの状態を図 1 0 に示す。

20

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 7 】

【図 1】本発明の第 1 の実施の形態であるキーテレホンシステム 1 のブロック図である。

【図 2】キーテレホンシステム 1 の端末 5 について説明するための図である。

【図 3】キーテレホンシステム 1 の動作を説明するための図である。

【図 4】キーテレホンシステム 1 の端末 5 の動作について説明するためのフローチャートである。

【図 5】本発明の第 2 の実施の形態であるキーテレホンシステム 3 0 のブロック図である。

。

【図 6】キーテレホンシステム 3 0 における外線と共有 I D の関係を模式的に示す図である。

30

【図 7】キーテレホンシステム 3 0 において、外線及び共有 I D が全て空き状態であるときの電話機管理ファイル 4 3、外線管理ファイル 4 4、共有 I D 管理ファイル 4 5 の状態を示す図である。

【図 8】キーテレホンシステム 3 0 において、端末 3 4 - 1 から F K ボタン A 1 を用いて発信したときの電話機管理ファイル 4 3、外線管理ファイル 4 4、共有 I D 管理ファイル 4 5 の状態を示す図である。

【図 9】キーテレホンシステム 3 0 において、端末 3 4 - 1 から F K ボタン A 1 を用いた外線発信を保留したときの電話機管理ファイル 4 3、外線管理ファイル 4 4、共有 I D 管理ファイル 4 5 の状態を示す図である。

40

【図 1 0】キーテレホンシステム 3 0 において、外線の保留を端末 3 4 - 2 にて解除したときの電話機管理ファイル 4 3、外線管理ファイル 4 4、共有 I D 管理ファイル 4 5 の状態を示す図である。

【符号の説明】

【 0 0 2 8 】

1、3 0 キーテレホンシステム

2、3 1 主装置

3、3 2 外線パッケージ

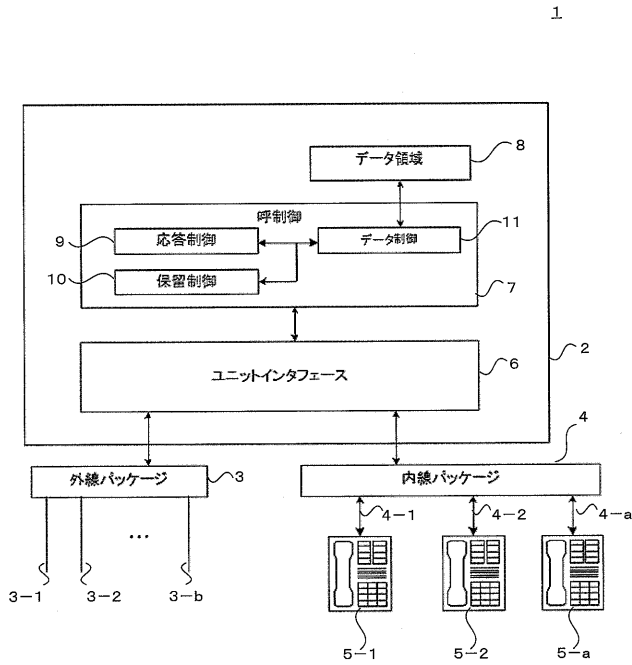
3 - 1、3 - 2、3 2 - 1、3 2 - 2 外線

4、3 3 内線パッケージ

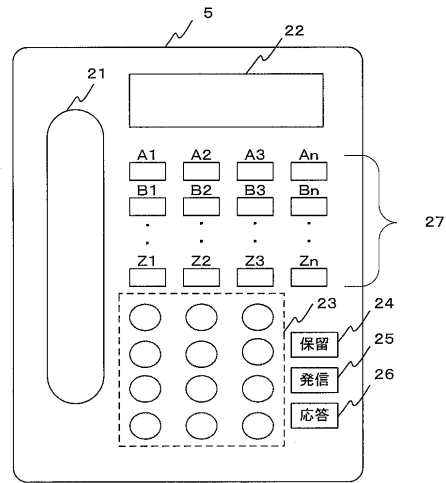
50

4 - 1、4 - 2、33 - 1、33 - 2	内線	
5、5 - 1、5 - 2、34 - 1、34 - 2、34 - 3	端末	
6、35	ユニットインタフェース	
7	呼制御部	
8、38	記憶装置	
9、39	応答制御部	
10、40	保留制御部	
11、41	データ制御部	
21	受話器	
22	表示装置	10
23	テンキー	
24	保留キー	
25	発信キー	
26	応答キー	
27	機能キー群	
36	呼制御回路	
37	制御部	
42	発信制御部	
43	電話機管理ファイル	
44	外線管理ファイル	20
45	共有ID管理ファイル	
50	インタフェース部	
51	音声処理部	
52	送受話器	
53	スピーカ / マイク	
54	制御部	
55	ダイヤルボタン	
56	機能ボタン	
57	保留ボタン	
58	発信ボタン	30
59	応答ボタン	
60	記憶部	
61	表示部	

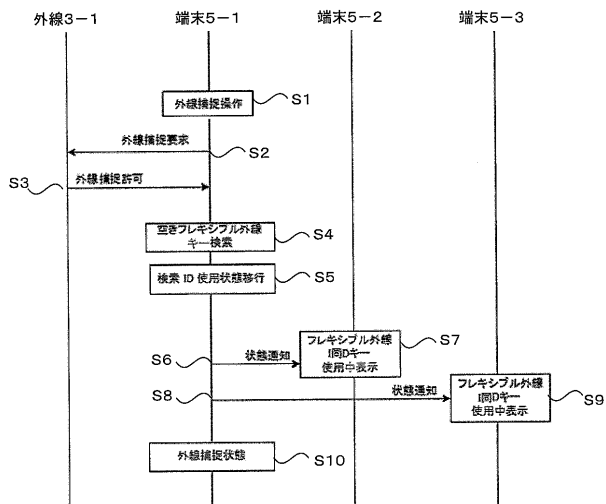
【図 1】



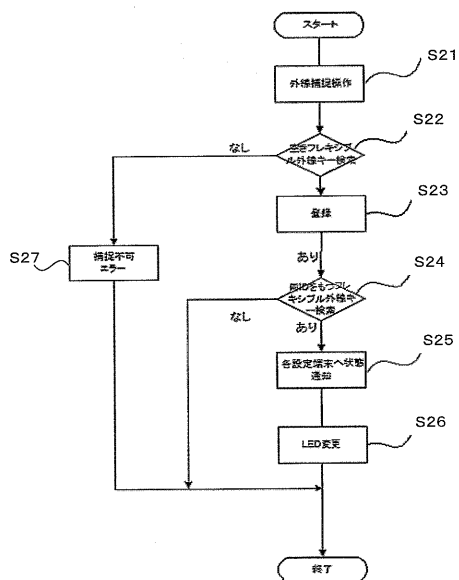
【図 2】



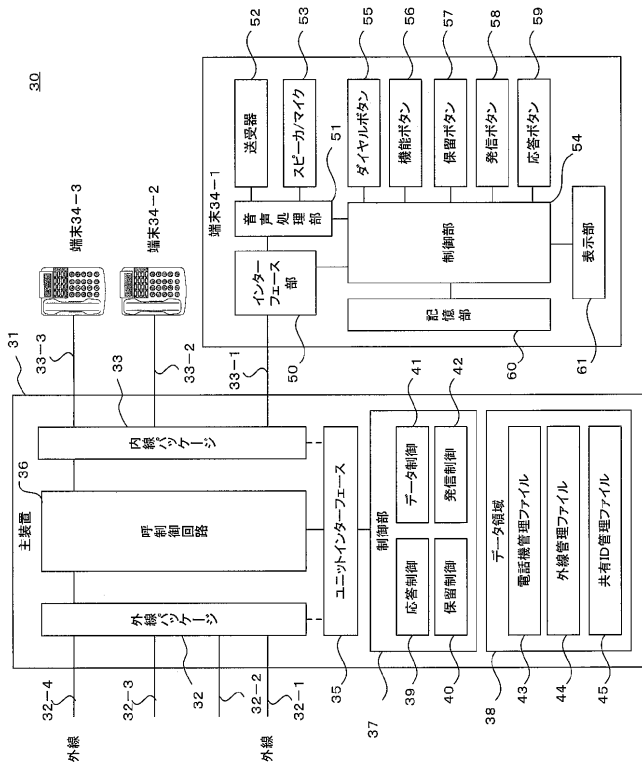
【図 3】



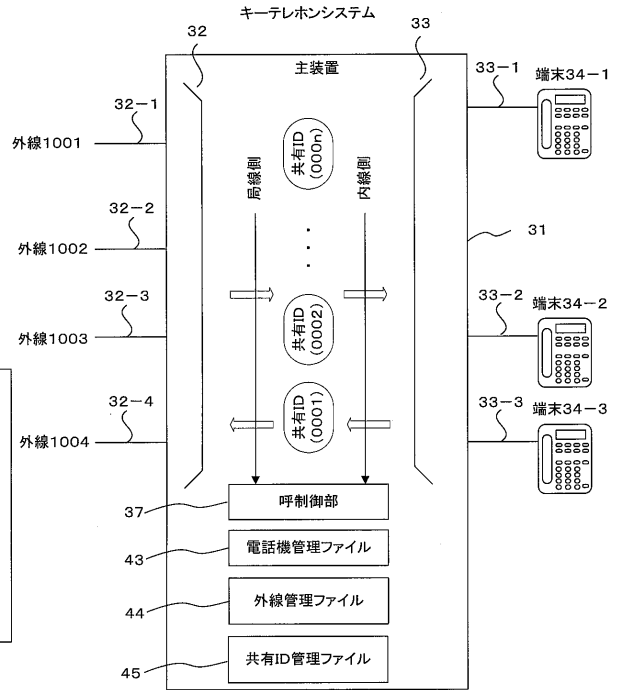
【図 4】



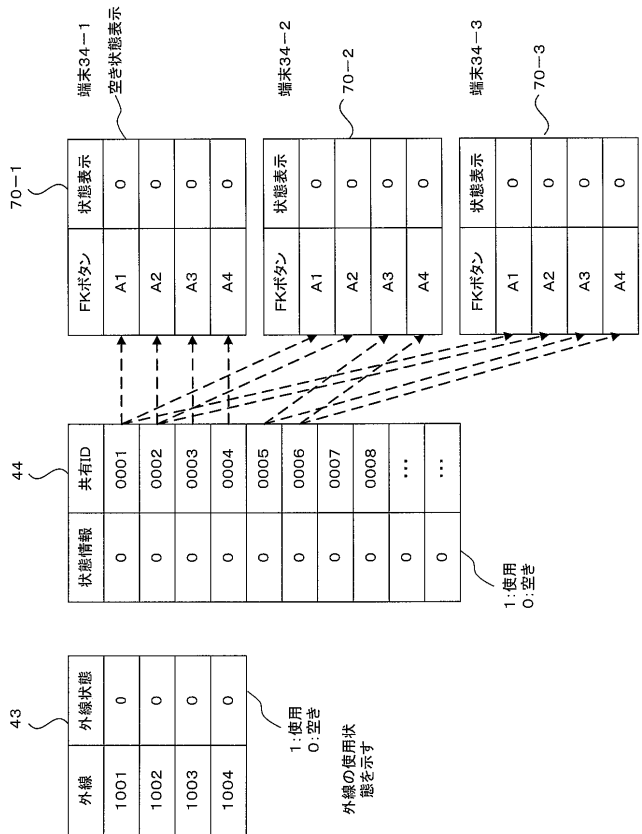
【図 5】



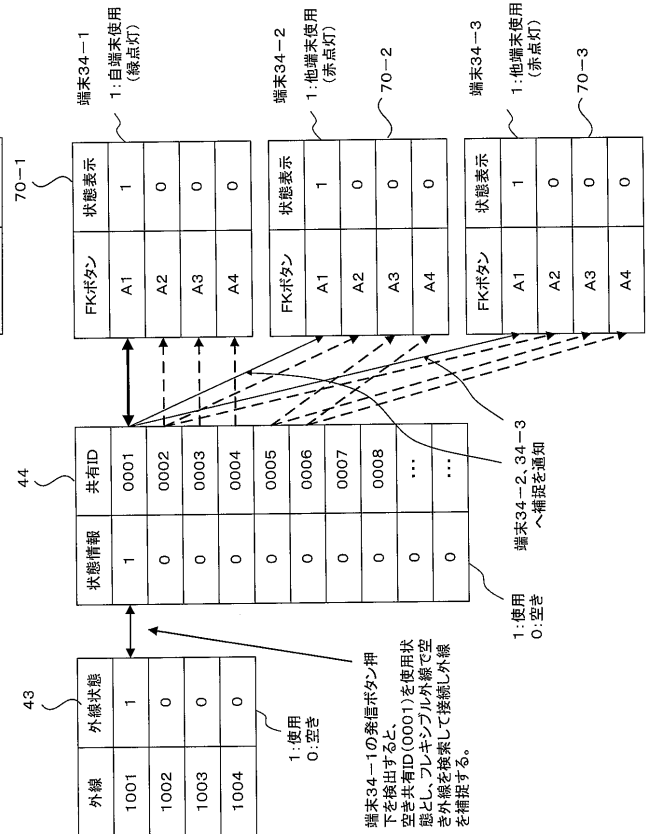
【図 6】



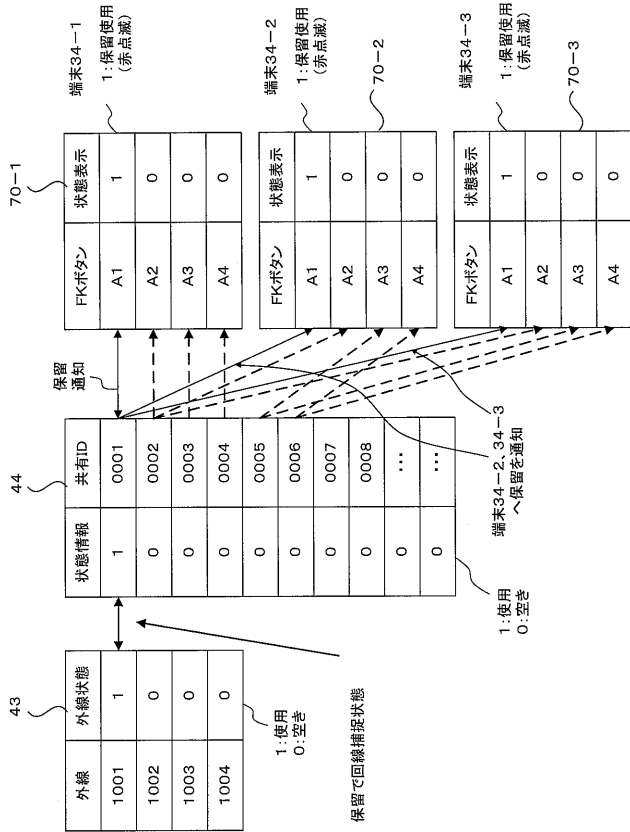
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

